

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

6/10

論述ブースト No.9

少子化・人口減少を医療の視点で論じる —— 産科・小児科・地域医療を軸に

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。少子化・人口減少の小論文で「少子化は社会問題です」という一般論で終わる答案と、産科・小児科・地域医療という医療の視点で具体的に論証した答案の評価の差を、審査側として繰り返し経験してきた。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 少子化・医療政策の小論文

東京大学・慶應義塾大学医学部・横浜市立大学医学部の推薦入試では、「少子化が医療に与える影響と対策を論じよ」という小論文が出題される。産科病院の減少・小児科医不足・地域医療の崩壊という医療の具体的な論点で論証できる受験生は採点者（大学教員）に際立つ。

② 人口動態と医療需要の変化を論じる問題

「高齢化が進む一方で少子化が進む社会で医師はどう対応するか」という問いは、医学部推薦入試で出題される。医療需要の変化という具体的な視点で答えられる受験生は感想論述との差が歴然とする。

③ 面接での「医師として少子化にどう向き合うか」

医学部面接で定番のテーマである。産科・小児科・地域医療という3軸で即座に論じられる受験生は試験官（大学教員）に印象を残す。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	少子化と医療政策の小論文	産科・小児科・地域医療の3軸が一般論との差を生む
横浜市立大学・大阪公立大学 医学部	地域医療・医師不足の論述問題	地域医療の視点が採点者（大学教員）に具体性を示す
奈良県立医科大学・京都府立医科大学	地域医療・産科医不足の小論文	産科・小児科の具体的な論点が評価を高める
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「少子化と医師の役割」型の口頭試問	3軸で即答できる受験生として採点者に際立つ

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

少子化の小論文を「少子化は問題です」という一般論で書く受験生は、採点者が求める「医療の視点からの具体的論証」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）少子化を産科・小児科・地域医療の3軸で論証できる、（2）医療需要の変化という具体的な視点で答案を組み立てられる、（3）面接で医療の具体的な論点を即座に語れる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、少子化論述で「一般論の答案」と「医療の視点から具体的に論証した答案」の評価の差を採点者として知っている。